令和７年度　後志地域づくり連携会議（羊蹄山麓ブロック）議事概要

日時：令和７年８月２９日（金）１０：００～１２：００
場所：喜茂別町農村環境改善センター　多目的ホール

出席者（構成員等）
　蘭越町長、ニセコ町長、真狩村長、留寿都村長、喜茂別町長、京極町長、倶知安町長、倶知安商工会議所会頭、ようてい農業協同組合長、ようてい森林組合長、ニセコリゾート観光協会代表取締役、倶知安観光協会長、後志総合振興局長、小樽開発建設部長

議事
（１）道央広域連携地域政策展開方針の進捗について
（２）地域づくり推進ビジョンの進捗について
（３）意見交換
（４）その他（情報提供）

意見交換　－地域が抱える課題について－

【蘭越町】
・河川、道路、公共土木といった社会資本の維持管理が重要。
・緊急自然災害防止対策事業債の期限が令和７年度までとなっている。特に今年度からは道路の舗装や路盤の補修にも活用できるようになり、自治体にとって使い勝手が大変良かった。期限を延長してほしい。
・ブロック内には羊蹄ニセコサイクルルートがあり、自転車の走行が増えている。小樽開発建設部においてもサイクルツーリズムの推進を図っていて、官民一体ですばらしい取組だと思っているが、安全に走行してもらえるよう、路側の除草や道路の維持補修をしっかり行ってほしい。
・農業経営の安定、安心安全な農作物を作るというのは基盤がきちんとしていないと出来ない。ブロック内でも各地で国営や道営の農業基盤整備が行われており大変ありがたいが、財源がかかせない。農業団体の要望もある。これからも食糧基地の重要な役割を果たす後志なので農業基盤整備を進めていただきたい。
・米問題。水田施策が令和９年度から大転換する。今年中に政策について話してもらわないと生産者は増産など言われても対応できない。振興局単位での説明会を国から要請をしてもらって開き、生産者の声を聞いて施策に反映させていただきたい。令和９年度から大転換するということで、生産者は不安に思っている。

【ニセコ町】
・シーニックバイウェイやニセコトレイルについては、景観関係の取組として引き続き推進していただきたい。

・オーバーツーリズム対策や観光客のマナーの向上が重要。各町村で課題があるため、道が進める宿泊税の一定割合が交付されることで地域の特異性を増やしていけることを期待している。
・日本での滞在期間は短期滞在では 90 日だが、デジタルノマドビザでは６か月。この地域では宿泊施設が充実してきているので、デジタルノマドビザの推進をお願いしたい。
・地域の人材が足りていない。北海道内の中で少ない人材を取り合うのではなく、四大都市圏に PR ブースを設けて社会人にきてもらう。ShiriBeshi 留学は素晴らしい制度なので拡充するなどお願いしたい。

【真狩村】
・土地や水資源の問題が出てきている。ここ 3, 4 年の間に森林や水源地を買う外国人が非常に増え、木を伐採して別荘を建てたりしている。森林の伐採届が１万平米以下で出されるが、外国人相手だと具体的にどんなことを行っているかコミュニケーションが取れないまま、木が切られて、山が崩されるということが起きないか危機感を持っている。水源や水質への影響も懸念される。これは羊蹄山麓ブロック全体の問題。
・振興局に協力してもらっているが既存の規制が弱いと感じている。外国人の土地の所有について、条例や法律に基づく土地の所有に関する規定があればいいと感じる。真狩村でも水資源に関する条例を変え厳しくやっているが、その効果が分かるものではなく、不安を持っているところ。今後、近隣自治体と同じ考え方で広域的に取り組むことが出来ればと思う。

【留寿都村】
・有害鳥獣に関して、今年は特にクマによる被害に危機感を持っている。猟友会のメンバーが高齢化し、ハンターの人数も減少しているため、今後駆除に関しては限界が生じてくる。農作業者も不安に思っているし、キャンプ等の観光にも影響が大きい。人里に出て来る有害鳥獣については、地域住民に暮らし方の改善、特にゴミ処理の方法について周知徹底し、狩猟の資格取得等の支援や活動に対する費用面での統一化も可能な部分は統一することが必要。
・留寿都村でも土地の売買は盛ん。村有地を購入して飲料用の水の工場を建設したいとの打診があったがお断りした。水資源に関する意識が高まっているなか、昨年度ルスツリゾート（加森観光）が水環境に関するシンポジウムを村内で開催し、今年も９月に開催する。水資源を守っていくためにどうすればいいか意識していただく機会となる。将来的には、このようなシンポジウムを官民で共催することで、よりよいものになると思う。
・今年度から留寿都村において国営農地再編整備事業の地域整備方向検討調査が始まった。調査期間は３年程度。この後地区調査を３年程度。それから事業に着手して完了まで 10 年程度かかる。もう少し短期間で調査を終わらせてほしい。沢地、傾斜地が多く、第１次産業を大事にしていきたいということからも事業に早く取り組み、後継者の安定的な育成と、農家の経営が安定し持続して農業ができるように、若い人（女性）にも農業が選ばれるように、ということを期待している。

【喜茂別町】
・サイクルツーリズムが推進されていて、中山峠を越えて町内にもいろんな方が自転車で走っているが、「道路にあなぼこや凸凹があって、推進している割には自転車で走りづらい」との苦情がある。少しずつ改善していただきたい。交差点では多くの自転車が溜まることがある。見通しが悪いと危険なので、ポイントポイントでいいので草刈りをしてほしい。
・当町にも流雪溝があるが、流末である河川に柳が生えてそこに土砂が堆積している影響で、流雪溝内の水が出て行きにくくなり凍結するということが起きている。すでに行っていただいているところだが、河川の柳などの木を街中だけでも伐採していただきたい。従前シカの通り道となっていて道路で車がシカにぶつかる事故が起きているところがあったが、昨年木を切っていただいたおかげでシカが出なくなった。シカ対策としても有効。
・シカを昨年 400 頭、今年はすでに 500 頭近く駆除している。ニセコ環境（株）に運んで処理しているがその費用がとてもかかるので、喜茂別町に単独の処理施設（800 頭処理可能）を建設したいと、道を経由して農林水産省に要求しているところ。道の環境生活部にシカ対策として半分の補助以外に補助がないかと聞いたら、他に利用できる補助制度は全くないという話であった。農業の鳥獣被害はとても大きいので、その対策のための補助金も充実させてほしい。

【京極町】
・新幹線工事や地熱発電所工事等で多数の大型車両が町内を通行していて道路が痛んでいるせいか、道路にポットホールが発生している。役場周辺はすぐに対応していただいているところであるが、引き続き対応をお願いしたい。
・路側の草が茂っていて、車がそれを避けようと道路中央によりがちになる。交通事故にも繋がるので、草刈り等の管理についても引き続きお願いしたい。
・河川の流量が減り、中州ができるほか、河岸に草木が繁茂している。伐採などの対策を行ってほしい。河川管理、中州管理をしていただければ災害対策にもなると思うのでお願いしたい。
・スマート農業を推進するために農業地帯（ほ場）の電波不感地帯の解消について、北海道総合通信局に相談している。
・農家から畑に水を通すなどの干ばつ対策をしていきたいとの声があがっている。皆様方とも相談しながら農業を進めていきたい。

【倶知安町】
・新幹線の開業が大幅に遅れ、まちづくりや地元の経済に大きな影響を与えている。支援・対策をしっかりやっていただけるようお願いしたい。
・地域公共交通を維持するのが厳しい状況。バス運転手や整備員が不足している。長万部～小樽間の鉄道のバス転換に向けて、遅くとも開業５年前には体制などを決めていかないと間に合わないため、今から運転手と整備員の育成を進め、不足しないようにしていくことが重要だと認識している。
・法令を無視した土地開発に対してどう対処していくか、景観、環境や水資源を維持するために、

皆さんと協力しながら一緒に対応策等考えていきたい。
・冬のリゾート関係者や工事関係者など働く人がたくさん倶知安町に入って来ている。そこで働く方々の住居が大変大きな問題となっている。需要と供給のバランスが崩れており、その影響で、一般の方の住居も不足している。住宅不足の慢性化、この問題についても今後本格的な検討を進めていかなければならない。

【倶知安商工会議所】
・令和５年度から、倶知安農業高校とともにどんな方法で人材不足の改善ができるのか議論しながら、検討を進めてきた。倶知安農業高校は従来、生産加工と生活園芸の２コースのどちらかの選択だったが、今年４月の新入生（24 名）からは、２年次に従来の生産加工と生活園芸をまとめたアグリプロダクションコースか、農業基盤について勉強する新設のアグリベースコースのいずれかを選択できるようになった。小樽開建や建設協会・建世会の協力をいただいて農業基盤整備の工事現場の見学をさせていただくなど支援をいただいているため、商工会としても生徒に支援をしていきたい。
・高規格道路の工事が進み今年３月に仁木 IC まで開通したところ。新稲穂トンネルについても工事が進んでいると伺っている。先行して部分開通することで、小売り、救急搬送などに効果が大きいし、冬期の交通状況の改善につながるので、ぜひお願いしたい。
・自転車の通行について、路肩の拡幅工事を行っているところもあるが、路肩が狭くて道路の中心寄りを走らなければならないところもあり、事故の危険性がある。安全に自転車走行できるように道路の整備をお願いしたい。来年は自転車の国際大会がニセコで開催される予定で、世界各国から選手や関係者が多数訪れ、観光や地元経済に貢献するイベント。そのためにも道路の整備をお願いしたい。

【ようてい農業協同組合】
・各地の農協が合併し、当農協が誕生して 29 年。この間 1,870 戸あった農家は 701 戸に減少したものの１戸当たりの耕地面積が増え、全体の耕地面積は維持されている。今年も高い気温が続いた影響で厳しい作況。収穫前の鳥獣被害（特にシカ、アライグマなど）も多く、農家の皆さんは大変苦労されている。
・米の価格が上がり、農家にとっては経営的に一息つけることができた状況。一方で、消費者にとって米の価格が上がり続けており、消費者と生産者が納得できる適正な価格形成の実現が必要と考えており、農家が生産を維持できるように取り組んでほしい。
・猛暑の影響で南の生産地は厳しい状況。私たちも暑くても生産が維持できるように技術の向上や生産品目についての見直しなどをしていく。農家や後継者が意欲を持って継ぎたいと思える生産を続けられるよう経営安定のため、皆さんの協力をお願いする。

【ようてい森林組合】
・林業の人材確保が大きな課題。北海道全体での従事者数はここ 10 年ほど 4,200 人前後と変わっていないが、60 歳以上が 30％と高齢化が進んでいる。そういうなか、旭川に道立北の森づくり専

門学院ができ、これまで約 100 名の卒業生を輩出し、林業で活躍している。彼らに林業に携わる動機をアンケートで尋ねたところ、もともと山が好きだった、林業になじみのある環境で育った、林業の話を聞いて興味を持ったという方が多い。農業、漁業と比べ林業はなじみ薄いので、林業やそこで働く人の情報を積極的に情報発信していきたい。7 月 16 日に後志管内（倶知安）で行われた高校生向けの合同企業説明会にも参加させていただいた。
・高度成長期の原野商法で、森林が細分化され販売された土地が、オイルショックのあと経済が低迷し、価値が低くろくに登記もなされないという状況で、所有者不明の森林が多い。令和元年度に始まった森林経営管理制度は市町村が所有者に代わって森林整備を行うことが出来る制度。所有者に聞き取りしても市町村に管理を委託したい意見が４割もあったので、この制度に基づき、市町村が所有者に代わって主体的に森林を管理していただきたい。所有者不明の山林の場合でも、特例手続き（知事の裁定（権限））により森林整備ができる。適切な森林管理がゼロカーボンにつながる。

【ニセコリゾート観光協会】
・ニセコのグリーンシーズンの観光に苦戦している。国内客の出足も悪い原因の一つにニセコ価格と表現されるところがあるので、正確な情報発信を丁寧に進めていきたい。同時に、二次交通などいろんなコンテンツの取組を進めていきたい。ニセコ駅で電動トゥクトゥクのレンタルをしている。
・鳥獣被害の関係で、今年は熊の出没を心配する問い合わせが多い。ニセコ駅と五色温泉インフォメーションセンターで熊撃退スプレーのレンタルを始めて２年経つが、今年が一番多い。レンタルができるという情報も普及していければいいかなと思う。
・観光課題の一丁目一番地は人材不足で、同時に人材育成も非常に重要だと考えている。ニセコ高校では二間口に増やして来春ニセコ国際高校へ変更し、寮も整備して、全国から呼び込もうとしているところ。注目度も上がっており、ニセコ町に一家で定住する例や ShiriBeshi 留学で英語を活用して働いた後に地域おこし協力隊として赴任するような例もある。しかし、高校や地域おこし協力隊の任期が終わった後に定住するための住宅不足が深刻。町内ではいっぱいでまかないきれなくても羊蹄山麓全体ではまだ空き家・キャパがあるという情報発信の整理も必要だと考えている。
・財源の面では、倶知安町とニセコ町で導入している宿泊税で順調に税収が上がっているが、可能かわからないが、開発税や、住宅不足でありながら空き家を改修して民泊にする動きなどがあり、それに対する空室税などの導入の検討なども必要だと考えている。また、無謀な開発行為に対する原状回復できるような開発前の供託金みたいな制度ができれば無謀な開発の抑止力になってくるのではないかと考えている。
・羊蹄山麓をどういう地域にしていきたいか、地域全体で考えていくと、持続可能な観光地域づくりになっていくと考えている。

【倶知安観光協会】
・倶知安町では先行事例として宿泊税が導入されており、宿泊税の使い方を相談されることが多

い。使い道として、北海道全体で使える３週間～２ヶ月くらいのリフト券を作るというのをよく提案している。実際、宿泊施設の運営をしているなかで１週間以上滞在する客を受け入れており、ネクストニセコを探しているお客様が多いと感じる。後志地区がスキーのハブとなることで北海道全体の競争力の向上につながると考えている。その時に交通がセットになることで初めて非常に利用しやすい状況になる。現在は、非常に利便性が悪い。例えば、小さな屋根もない比羅夫北というバス停が唯一、路線バスで留寿都までいくという状況、寒空の中結構なお客さんが待っている。

・不法な開発についての防止策がなかなかない。法律が頼りない部分が多いので、止めようと騒いでも、訴えられたらなどリスクにさらされてしまう現状。現在、国会議員に資源特区を作ってもらい、雪・水・森・畑などを守ってもらうように話している最中。要望を出すときには地域、町、北海道と順々にあげて許可してもらう形がいいと考えている。北海道、羊蹄山麓にも協力いただくこともあるかと思うが、そのときはぜひお願いしたいと考えている。

【蘭越町】

・本日の構成員のご発言の内容ついてぜひ検証していただきたい。こういったことができる、こういった支援がある、参加している地方支分部局にも情報提供をすることでさらに課題を解決していく。対応できないものがある場合、どうしたらいいのかということを皆さんで検討していく、という会議になったらいいと思う。発言や検証した内容を、地域づくりビジョンや予算に反映させるということやってほしい。どう反映されたかをまとめたものを次の会議の際に事前に見せてもらい、その上で地域の課題をやっていけば、さらに一歩解決に向けてつながっていくと思う。

・鳥獣被害対策で国に要請に行った際に、北海道の他の首長が、捕獲する鳥獣の数が多すぎて、職員が殺処分をやらざるを得ない状況で、結果、精神的に参ってしまったと話していた。財政的な支援があれば、委託したり、電牧柵や箱わなを設置するなどいろいろできると毎年訴えているが、鳥獣駆除への国の交付金の単価が上がらないので、町村が独自負担で上乗せして、なんとか駆除しているという状況。このような現状を一歩でも推し進めるために、この会議を皆さんと一緒に取り組んで行く場としたい。

【ニセコ町】

・水源地の関係で争っているが、どうしてという問い合わせが多い。

・10 年間占有していれば時効による取得が主張できる。町では水道資源保護地域として条例を制定し、告示して知らしめている。また１年後に制定された道の条例に基づく届け出をしており、水資源を守ろうとして動いてきた。にもかかわらず、過去の判例によると看板を立て柵で囲ったり、建物を建てたりするなどしていないと実行支配として認められないと裁判に負けたもの。

・現在札幌高裁に控訴中で来月にも判決がでる見通し。町は善意の第三者として取得した土地であることを皆さんに御理解いただきたい。